佐久市埋蔵文化財調査報告書　第２６８集

岩村田遺跡群

西一本柳遺跡ＸＸⅢ

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡ＸＸⅢ発掘調査報告書

2019．11

佐久市教育委員会

例　言

1. 本書は、ウィッシュホーム株式会社が行う宅地造成工事に伴う岩村田遺跡群西一本柳遺跡ＸＸⅢの発掘調査報告書である。
2. 調査原因者　　ウィッシュホーム株式会社　代表取締役　芝波田　政之
3. 調査主体者　　佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び調査面積　　岩村田遺跡群　西一本柳遺跡ＸＸⅢ（ＩＮＰＸＸⅢ）
　　１１０㎡
5. 所　在　地　　佐久市岩村田字常木上２３２４－３他
6. 調査期間　　令和元年５月１６日～２７日（現場発掘作業）
　　令和元年５月３１日～令和２年３月（報告書作成作業）
7. 調査担当者　　冨沢一明
8. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1. 遺構の略記号は、住居址（Ｈ）・土坑（Ｄ）・単独ピット（Ｐ）である。
2. 挿図の縮尺については、挿図中にスケールを示した。
3. 遺構の標高は遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」とした。
4. 土層の色調は、1988 年版『新版　標準土色帖』に基づいた。
5. 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

地山　焼土　掘方　赤彩・粘土

発掘調査状況

目　次

例言・凡例・目次
第Ⅰ章　発掘調査の経緯
　　１．経過と立地
　　２．調査体制
　　３．調査日誌
　　４．遺構・遺物の概要
　　５．標準土層
　　６．調査の方法
第Ⅱ章　遺構と遺物
　　１．竪穴住居址
　　２．土　坑
　　３．ピット・遺構外出土遺物
　　４．調査の成果

写真図版
抄　録

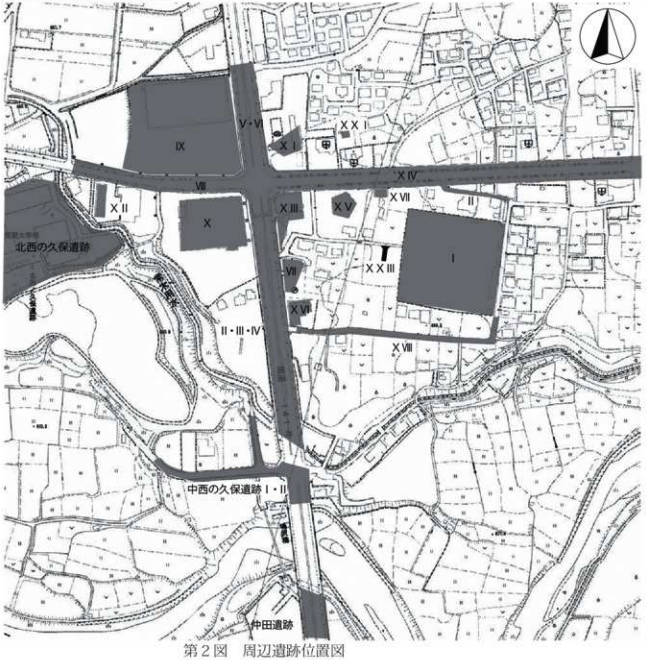
第１図　西一本柳遺跡ＸＸⅢ位置図（1：50000）

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

１.経過と立地

西一本柳遺跡ＸＸⅢは、佐久市岩村田に所在し、岩村田畑遺跡群の南西よりに位置する。遺跡は、湯川を南にのぞむ台地上に立地し、台地周辺の海抜は６９０ｍ前後を測る。

本遺跡の周辺では、各種開発により調査された地点は２０か所以上である。これらの調査からは、弥生時代中期・後期の出土品として、写実的な表現で有名となった人形土器や変形銅戈形石製品、朝鮮半島産と考えられる板状鉄斧などが出土し注目されている。今回、遺跡群内において株式会社ウィッシュホームにより宅地造成工事が計画され、市教育委員会に文化財保護法 93 条の届出があった。市教育委員会では試掘・確認調査を行った結果から遺跡の保護措置がとれない道路部分を中心に、記録保存目的の発掘調査を行うこととなった。



第２図　周辺遺跡位置図

2．調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長　棚澤晴樹			
事　務　局	社会教育部長	青木　源			
	文化振興課長	東城　洋			
	企　画　幹	吉田　晃			
	文化財調査係長	山本秀典			
	文化財調査係	小林眞寿	羽毛田卓也	冨沢一明	
		上原　学	久保浩一郎		
	調　査　員	赤羽根篤	赤羽根充江	浅沼勝男	木内修一
		小林妙子	清水律子	堀篭まゆみ	堀篭保子
		柳澤孝子	横尾敏雄	依田好行	比田井久美子
		中澤　登	田中ひさ子	羽毛田利明	

3．調査日誌

２０１９年３月 22 日	ウィッシュホーム株式会社より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出。
３月 26 日	長野県教育委員会へ市教育委員会より 30 佐教文振第 1572-2 号土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知について (副申)
４月２日	長野県教育委員会より 31 教文第７-3 号にて周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について (通知)
５月８日	ウィッシュホーム株式会社より埋蔵文化財調査費概算見積依頼が提出。
５月 14 日	ウィッシュホーム株式会社と市教育委員会により埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結。
５月 16 日 ～ 27 日	記録保存目的による開発対象地の発掘調査を行い、引き続き報告書作成作業を行う。
11月	埋蔵文化財調査告書を刊行する。
２０２０年３月	記録類・出土品を整理保管しすべての業務を終了する。

4．遺構・遺物の概要

遺　構　竪穴住居址　６軒 (弥生・古墳・古代・不明)　土坑　単独ピット

遺　物　弥生土器 (中期・栗林期)　土師器　須恵器

5．標準土層

今回の調査地点は南西方向に僅かに傾斜する台地上で、基本層序は４層に分かれる。Ⅲ層上面が遺構確認面である。確認面深さは地表より 60 ～ 70㎝ほどであった。

第Ⅰ層　10YR4/1　褐灰色土 耕作土でしまり弱い。
第Ⅱ層　10YR3/3　暗褐色土　しまり・粘性ややあり。軽石と小石を含む。
第Ⅲ層　10YR5/6　黄褐色土　浅間Ｐ１層
第Ⅳ層　10YR7/6　明黄褐色土　黄色の砂層でしまり・粘性弱い。

調査区全景 (南より)

６．調査の方法

遺構調査・遺構測量

住居址は均等に４分割し、対面する２区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、床面を精査し、柱穴・カマド等を適宜分割し、土層の観察・記録を行い、最終的に平面の記録を行った。

遺物は分割した各区毎に取り上げ、床面上の遺物に関しては連続する№を付け３次元の記録を行い取り上げた。土坑は長軸方向に沿って２分割し、半裁により土層の観察・記録を行った後完掘した。遺物は遺構№で一括した。溝址は短辺方向に任意の場所で区分し、土層を観察・記録した。遺物は区毎に取り上げた。遺構外の遺物はグリット毎に取り上げた。平面図・断面図ともに調査区内に設定した基準杭を利用した遺り方測量により調査担当及び調査員が実施し、縮尺は 1/20 を基本とした。

遺構・遺物の整理等

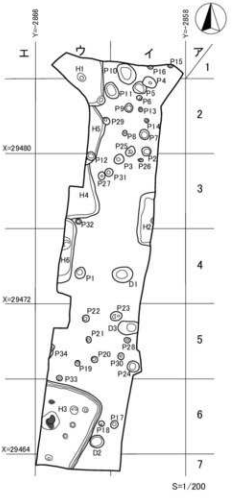
遺物洗浄は竹ブラシを用い手でおこない、室内で乾燥させた。注記は白色のポスターカラーにより行い、薄めたラッカーをその上から塗布した。遺物接合はセメダインＣを使用し、遺物復元の際の充当材はエポキシ系樹脂を用いた。遺物実測は手取りで行った。

遺物の保管に際しては報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り収蔵庫に収納した。図面は遺構を 1/40 で修正、遺物を 1/1 で実測し、それぞれ仮図版を作成した。

写真・報告書

現場での写真は、デジタル一眼レフカメラによるＲＡＷ画質モードと、35㎜一眼レフカメラによるカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。

遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、ＥＰＳデータ形式で報告書に使用した。報告書挿図はアドビ社製の「イラストレーター」で作成し、表についてはマイクロソフト社の「エクセル」で作成した。写真・拓本はアドビ社製「フォトショップ」により補正加工を行った。これらを最終的に「インデザイン」により頁単位で編集し、印刷原稿とした。



第３図　西一本柳遺跡ＸＸⅢ調査全体図

第Ⅱ章　遺構と遺物

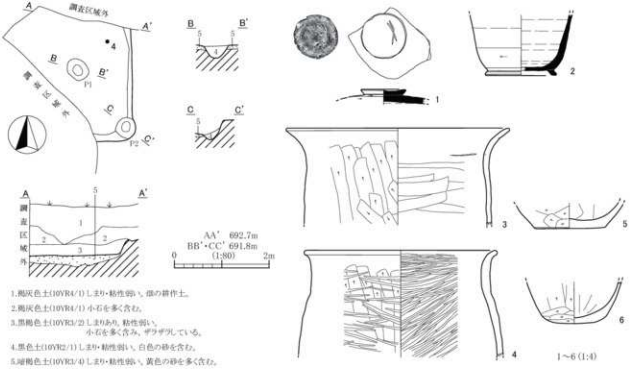
１．竪穴住居址

(1) Ｈ１号住居址

本址は調査区北端で検出された。住居址の南東コーナー部が検出されたと考えられる。規模は検出部分で南北長が 2.36 m、東西長が 2.64 mを測る。住居床面積は 4.13㎡調査した。床は全体に軟質であったが、0.24 mの厚さでいわゆる貼り床が施されていた。ピットは今回２ヶ所で検出された。規模はＰ１が径 0.49 m・深さ 0.31 m、Ｐ２が径 0.43 m・深さ 0.10 mを測る。壁高さは南東コーナー付近で 0.31 mを測る。壁溝等は検出されなかった。

出土遺物は覆土を中心に出土した。図示した遺物は６点であり、１は須恵器蓋の摘み部である。天井部に焼成前のヘラ記号と思われる沈線状の印が確認できる。２は須恵器小壺の底部と考えられる。３～６は土師器の甕で、３と４は口縁部、５と６は底部である。

本址からの出土遺物は時期差がみられるが、１と２の須恵器は覆土中からの出土である為、ほぼ床面から出土した４の土師器甕から古墳時代後期が本址の所産時期と考えられる。

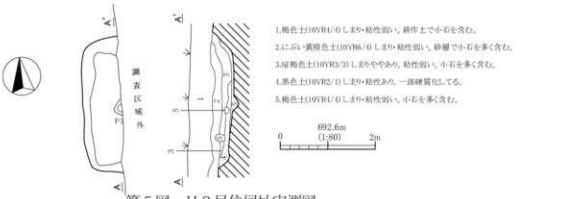


第４図　Ｈ１号住居址及び出土遺物実測図

(2) Ｈ２号住居址

本址は調査区中央部で検出された。住居址の西壁全体は検出されたが、東側のほとんどは調査区域外となる。西壁を軸とした主軸方位はＮ－４°－Ｗを示す。規模は南北長 2.28 m、検出された東西長 0.67 m、面積は 1.34㎡であった。壁は北西コーナー付近で 0.22 mを測る。顕著な貼り床は確認されなかった。ピットは１ヶ所確認され、Ｐ１が検出された径が 0.32 m・深さ 0.35 mを測る。

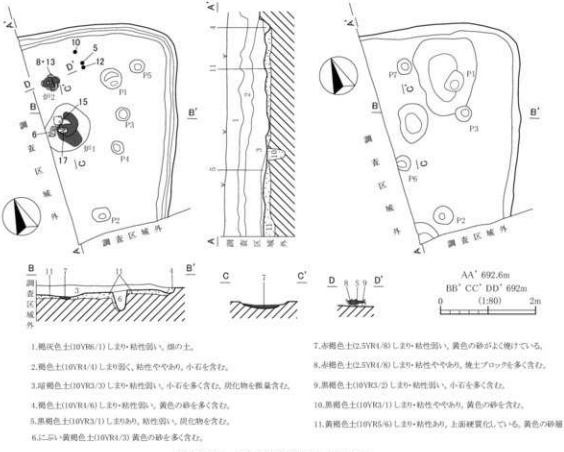
本址からの出土遺物は少なく、図示できるものは無かった。覆土より古墳時代後期と考えられる土師器甕片や土師器坏片、弥生時代中期の壺や甕片が出土している。よって本址の所産時期は不明である。



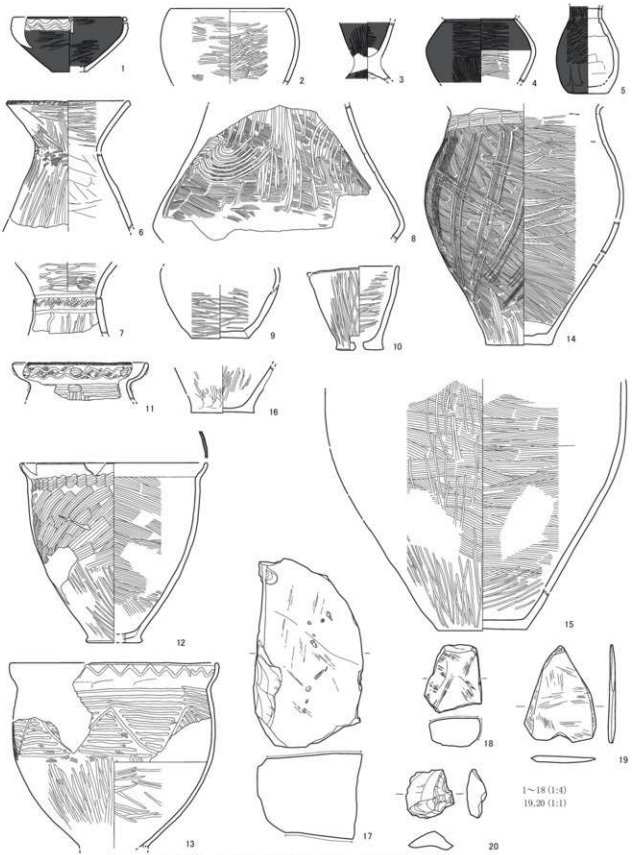
第５図　Ｈ２号住居址実測図

(3) Ｈ３号住居址

本址は調査区南端で検出された。住居址の北東コーナー付近を中心に全体の１/ ４程が調査されたと考えられる。規模は検出された部分で東壁 3.64 m・北壁 2.94 m、面積は 9.79㎡を測る。主軸方位はＮ－19°－Ｅを示す。壁高さは 0.05 ～ 0.08 m と低かった。壁溝は全体で検出され、幅 0.19 ～ 0.24 m・深さ 0.06 ～ 0.09 m を測る。床は全体に軟弱であったが、炉周辺のみは硬質化が確認できた。ピットは掘方も含め７ヶ所検出された。規模はＰ１が径 0.45 m・深さ 0.44 m、Ｐ２が径 0.38 m・深さ 0.28 m、Ｐ３が径 0.30 m・深さ 0.35 m、Ｐ４が径 0.28 m・深さ 0.16 m、Ｐ５が径 0.29 m・深さ 0.18 m、Ｐ６が径 0.32 m・深さ 0.36 m、Ｐ７が径 0.34 m・深さ 0.32 m を測る。



第６図　Ｈ３号住居址実測図



第７図　Ｈ３号住居址出土遺物実測図

本址の炉は２ヶ所で確認された。しかし、炉２とした焼土範囲は住居床面より浮いた状態で検出され、図に示した８と13の土器内に焼土が限定されることから、本址が埋没していく段階で土器ごと破棄されたものと考えられる。炉１とした部分はよく焼けており、周辺部の床も硬質化していた。

本址からの出土遺物は多く、20点を図示した。１と２は鉢で、１は赤彩と口縁部にヘラ描波状文が施されている。３は小型かミニチュアの高坏で赤彩が施されているが、坏部と脚部の接合部は器面に意図的と考えられる剥落があり、赤彩が落とされていた。４は赤彩された壺？の胴部である。頸部にヘラ描沈線が施されている。５はミニチュアとも考えられる小壺である。赤彩とミガキが施されている。６から９は壺であり、６と７は頸部と口唇部に縄文施文されている。８は胴部にヘラ描連弧文が施されている。10は小型の単孔甑で、５の壺とともに床面より出土した。11から16までは甕である。器形全体が把握できるものは少なく12のみであった。13は頸部から胴部にヘラ描波状文とヘラ描鋸歯文が施されている。17は台石及び砥石のような形態で、２面に磨ったような痕跡があり、敲打痕が確認される。18は砥石と考えられ、２面の砥面が確認できる。19は磨製石鏃の未成品と考えられる。20は黒曜石の剥片である。

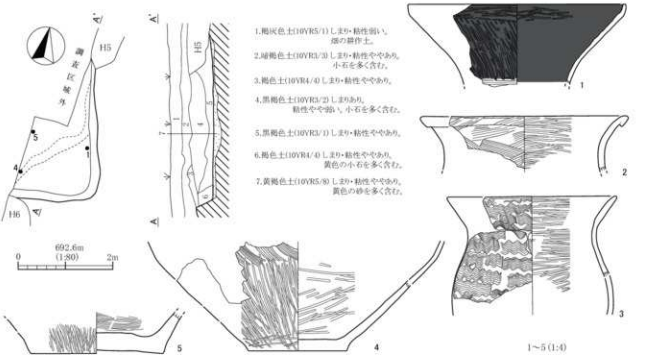
本址はこのような出土遺物から弥生時代中期後半の栗林期の所産と考えられる。

(4) Ｈ４号住居址

本址は調査区中央部で検出された。Ｈ５・６号住居址と重複関係にあり、本址の方が古い。住居址の南東コーナー部のみの検出で、西側のほとんどは調査区域外となる。東壁を軸とした主軸方位はＮ－10°－Ｗを示す。規模は検出された部分で東壁長2.64 m、南壁長1.52 m、面積は2.44㎡であった。壁は東壁で0.28 mを測る。床は一部硬質化しており、貼り床は0.16 mの厚さで確認された。

本址からの出土遺物は少なかったが５点を図示した。１は赤彩された壺の口縁部で床面上から出土した。２から５は甕の口縁部と底部付近の破片である。２は口唇部が折り返され、櫛描斜走文が施されている。

本址はこれらの出土遺物より弥生時代後期後半の箱清水期に位置づけられると考える。

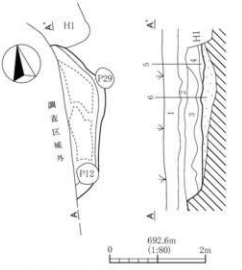


第８図　Ｈ４号住居址及び出土遺物実測図

(5) Ｈ５号住居址

本址は調査区北側で検出された。Ｈ１号住居址と重複関係にあり、本址の方が古い。住居址のほとんどは調査区域外となる。Ｐ 29 付近が北東コーナーとすると、規模は検出された部分で南北長 2.84 m、東西長 0.72 m、面積は 1.44㎡であった。壁は 0.10 ～ 0.13 mを測る。床は一部硬質化しており、貼り床は 0.15 ～ 0.27 mの厚さで確認された。

本址からの出土遺物は少なく図示できるものはなかったが、弥生時代中期壺片と甕片、土師器のいわゆる武蔵甕片が出土したが、いずれも所産時期を確定できるものではなかった。



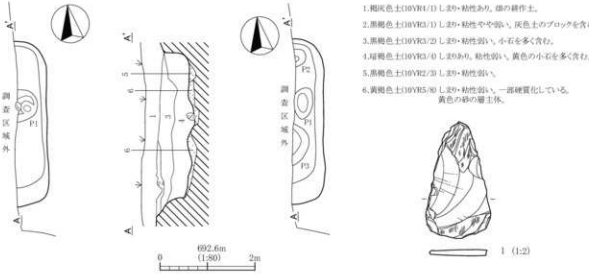
1.褐灰色土(10YR5/1) しまり・粘性弱い、畑の耕作土。
2.暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性ややあり、小石を多く含む。
3.黒褐色土(10YR3/2) しまり・粘性ややあり。
4.黒褐色土(10YR3/1) しまりややあり、粘性あり、砂を含む。
5.褐色土(10YR4/6) しまり・粘性ややあり、黄色の砂を少量含む。
6.黄褐色土(10YR5/8) しまり・粘性弱い、黄色の砂と黒色土のブロックを含む。

第９図　Ｈ５号住居址実測図

(6) Ｈ６号住居址

本址は調査区中央で検出された。住居址のほとんどは調査区域外となり、東壁が検出されたのみである。東壁を軸とした主軸方位はＮ－７°－Ｅと考えられる。規模は南北長 2.96 m、東西長 0.56 m、面積は 1.51㎡であった。壁は北壁ぎわで 0.44 mを測る。床は一部硬質化しており、貼り床は 0.12 ～ 0.18 mの厚さで確認された。

本址からの出土遺物は少なく、須恵器甕・坏片、土師器内黒坏片があった。図示したものは石器未成品のような形状で、石材は黒色緻密安山岩に似る。これらのことから本址の所産時期は不明である。



第 10 図　Ｈ６号住居址及び出土遺物実測図

2．土　坑

(1) Ｄ１号土坑

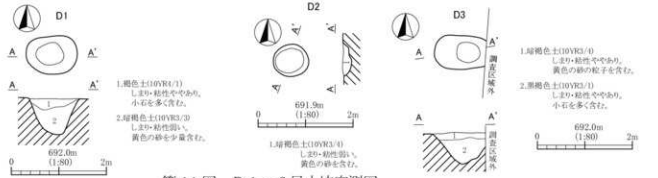
本址は、調査区中央で検出された。形態は楕円形で、規模は長軸 1.08 m・短軸 0.80 mを測る。深さは最深部で確認面より 0.73 mを測る。本址からの出土遺物は弥生時代中期の壺口縁部片と甕片が出土した。図示できるものはなかった。本址の所産時期は不明である。

(2) Ｄ２号土坑

本址は、調査区中央南で検出された。形態は円形で、規模は長軸 0.72 m・短軸 0.68 mを測る。深さは最深部で確認面より 0.13 mを測る。本址からの出土遺物は弥生土器の壺片が出土したのみであり、図示できるものはなかった。本址の所産時期は不明である。

(3) Ｄ３号土坑

本址は、調査区中央で検出された。形態は楕円形で、東側が一部調査区域外となる。規模は長軸 1.08 m・短軸 0.58 mを測る。深さは最深部で確認面より 0.58 mを測る。本址からの出土遺物は古墳時代後期の甕片と弥生土器鉢片が出土したが図示できるものはなかった。本址の所産時期は不明である。

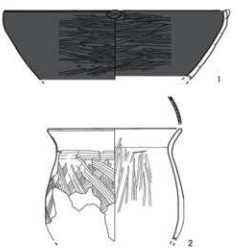


第 11 図　Ｄ１～３号土坑実測図

3．ピット・遺構外出土遺物

今回の発掘調査では 34 個の単独ピットを検出した。調査区幅が狭いため掘立柱建物址を構成する可能性は否定できないが、建物址は確認されなかった。形態は円形と楕円形があった。出土遺物は計測表に記載したが図示できるものはなく、弥生時代中・後期の土器片が多かった。

遺構外出土遺物として２点を図示した。１は弥生土器の鉢と考えられる破片で、口縁部に貼付文がある。２は弥生土器の甕で櫛描文が施されている。



第 12 図　遺構外出土遺物実測図

4．調査の成果

今回は 110㎡という限られた面積の発掘調査であったため、住居址全体の形状を把握できたものは１軒もなかった。しかし、近隣の調査事例が国道及び市道沿線に偏っているため今回のように調査事例の空白範囲での調査成果は貴重な追加資料となった。

今後このような調査事例が増せば、今まで不確実であった弥生時代中期の集落範囲や、弥生時代後期の所産と考えられる「環濠」内の集落動向など新たな視点が得られることになるであろう。

第1表　H1・H3・H4号住居址・Gr出土遺物観察表

（単位　cm・g）

H1	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値（）残存値〈 〉	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	縄文器	鉢	－	－	〈1.6〉	ロクロナデ　芯痕残らず	ロクロナデ　天井部 回転ヘラケズリ つまみ部にヘラ記号	完全実測	
2	縄文器	壺	－	(7.6)	〈6.4〉	ロクロナデ	ロクロナデ　体部下端及び底部回転ヘラケズリ	回転実測	
3	土師器	甕	(23.6)	－	〈10.2〉	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	
4	土師器	甕	(20.4)	－	〈11.2〉	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	
5	土師器	甕	－	7.5	〈2.7〉	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	
6	土師器	甕	－	(6.0)	〈4.4〉	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	

H3	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値（）残存値〈 〉	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生	鉢	(11.8)	(3.8)	(5.8)	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩 口縁部　ヘラ描波状文・焼成前穿孔	回転実測	ⅡK
2	弥生	鉢	(12.6)	－	〈2.9〉	ハケ目→ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ	ケン	
3	弥生	ミニチュア高杯	－	－	〈6.2〉	坏部　ヘラミガキ→赤彩 脚部　ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	ⅠK
4	弥生	壺？	－	－	〈6.8〉	上半部　ヘラミガキ→赤彩 下半部　ハケ目	ヘラミガキ→赤彩 頸部ヘラ描沈線	ケン	
5	弥生	ミニチュア壺	－	4.3	〈9.2〉	ナデ→赤彩	ヘラナデ→ヘラミガキ→赤彩	完全実測	
6	弥生	壺	(13.1)	－	〈13.8〉	口縁部　ヘラミガキ　体部　ナデ	口唇・頸部　縄文(L R)　口縁・体部　ヘラミガキ	完全実測	ⅡK
7	弥生	壺	－	－	〈7.7〉	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラミガキ 縄文(L R)→ヘラ描沈線→ヘラ描波状文(縄)	完全実測	ⅠK・ケン
8	弥生	壺	－	－	〈14.3〉	ハケ目	ハケ目→ヘラミガキ→ヘラ描連鋸文	回転実測	9?2
9	弥生	壺	－	(6.0)	〈5.7〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	ⅡK
10	弥生	甕	9.8)	5.0	8.9	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	
11	弥生	壺	(14.4)	－	〈4.0〉	ヘラミガキ	口唇部　縄文(L R)　口縁部　縄文(L R) ヘラ描波状文　ヘラ描コの字文　円形浮文貼付	回転実測	ⅠK
12	弥生	壺	(19.8)	(6.0)	19.0	ハケ目	頸部　櫛描波状文　体部　櫛描斜走文 下部　ヘラミガキ　口唇部　縄文(L R)	回転実測	ケン・ⅠK ⅠK ポト・ⅡK
13	弥生	壺	(22.0)	－	〈19.6〉	ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ　口縁部　ヘラ描波状文 体部　ヘラ描刺突文	回転実測	9?2
14	弥生	壺	－	7.0	〈15.5〉	ハケ目→ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ 頸部櫛描簾状文(8本1連とめ) 体部格子目文3本	完全実測	9-6
15	弥生	壺	－	9.3	〈26.5〉	ハケ目→ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ	完全実測	ⅠK・ⅡK
16	弥生	壺	－	6.6	〈5.0〉	ヘラミガキ	ナデ→ヘラミガキ	完全実測	ⅠK　9-6

No.	素材	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	出土位置
17	石器	台石	20.0	11.6	9.0	3,400	使用面2 正面に敲痕と敲打痕	
18	石器	砥石	7.2	6.0	3.0	165.65	砥面数2	ⅡK
19	石器	磨製石斧	2.6	1.9	0.2	1.15	未成品か	ⅠK
20	石器	剥片	1.3	1.2	0.4	0.62	不純物が多い、黒曜石	ⅡK

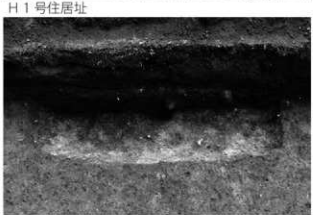
H4	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値（）残存値〈 〉	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生	壺	(23.0)	－	〈8.5〉	ヘラミガキ→赤彩	頸部　櫛描横路文　口縁　ヘラミガキ→赤彩	回転実測	
2	弥生	壺	(22.0)	－	〈6.0〉	ヘラミガキ	櫛描斜走文	回転実測	
3	弥生	壺	(13.0)	－	〈12.5〉	ヘラミガキ	櫛描波状文	回転実測	
4	弥生	壺？	－	10.3	〈11.5〉	ヘラミガキ	櫛描斜走文　ヘラミガキ	完全実測	
5	弥生	壺	－	13.9	〈4.4〉	ハケ目	ヘラミガキ	完全実測	

H6	素材	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	出土位置
1	石器	磨製石斧	6.1	3.4	0.4	11.68	未成品か　一部研磨	ケン

Gr	種別	器種	法量			成形・調整・文様		推定値（）残存値〈 〉	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	備考	出土位置
1	弥生	鉢	(24.0)	－	〈7.4〉	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	9-6
2	弥生	壺	(14.4)	－	〈12.0〉	ヘラミガキ	櫛描簾状文(4本1連とめ)　櫛描格子目文 口唇部　縄文(L R)	回転実測	9-5・6

Ｈ１号住居址

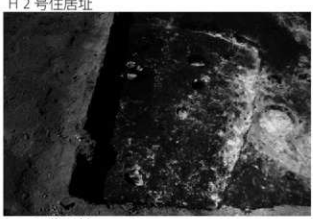
Ｈ５号住居址



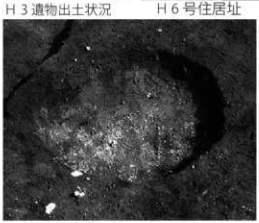
Ｈ２号住居址

Ｈ３遺物出土状況

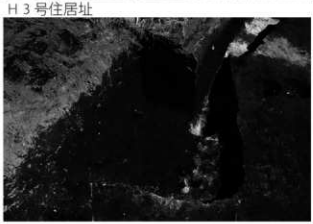
Ｈ６号住居址



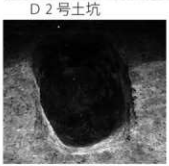
Ｈ３号住居址



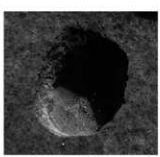
Ｄ２号土坑



Ｈ４号住居址

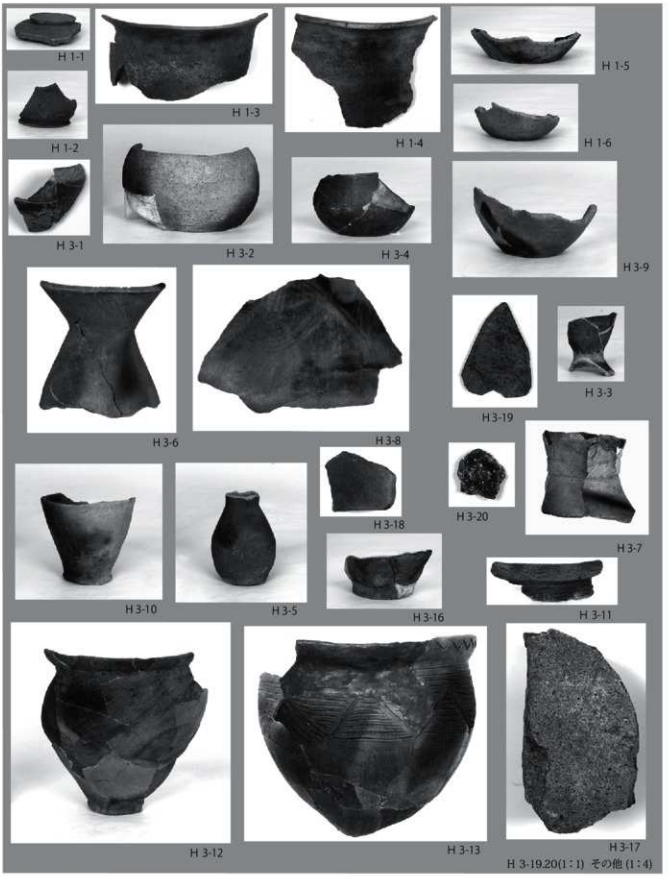


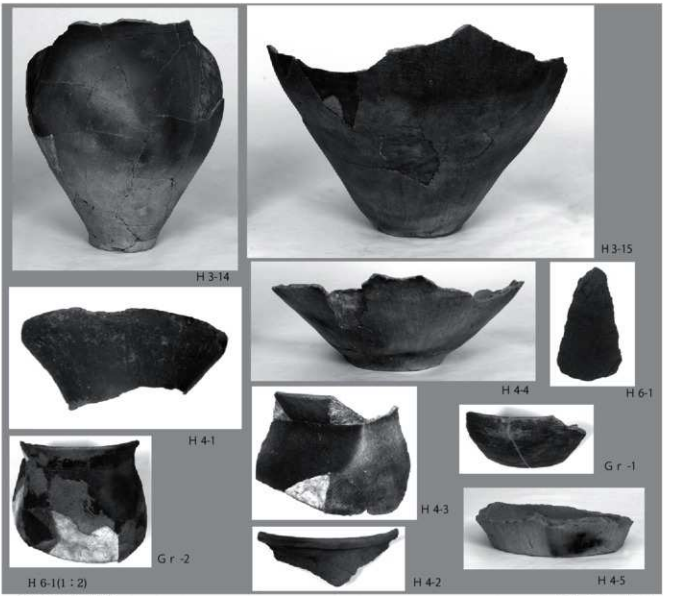
Ｄ３号土坑



Ｄ１号土坑

図版　2


H 1-1
H 1-2
H 1-3
H 1-4
H 1-5
H 1-6
H 3-1
H 3-2
H 3-4
H 3-9
H 3-6
H 3-8
H 3-19
H 3-3
H 3-18
H 3-20
H 3-7
H 3-10
H 3-5
H 3-16
H 3-11
H 3-12
H 3-13
H 3-17
H 3-19.20(1：1)　その他 (1：4)



第2表　ピット計測表

（）推定　〈 〉残存　（単位 cm）

遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備考	遺構名	出土位置	長径	短径	深さ	形態	出土遺物 重複関係	備考
P1	ウ-4	62.0	55.0	25.0	楕円形	弥生（中期）甕4片	黒褐色土(10YR3/1)	P18	ウ-6	21.0	29.0	18.0	円形	弥生（中期）甕1片	褐色土(10YR4/4)
P2	イ-2・3	52.0	49.0	19.0	円形	弥生（中期）鉢2片	黒褐色土(10YR3/1)	P19	ウ-5	31.0	28.0	24.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P3	イ-3	55.0	49.0	27.0	円形	弥生（中期）鉢1片	黒褐色土(10YR3/1)	P20	ウ-5	35.0	32.0	20.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P4	イ-1・2	73.0	55.0	32.0	楕円形	弥生（中期）甕5片	黒褐色土(10YR3/1)	P21	ウ-5	35.0	28.0	23.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P5	イ-2	70.0	65.0	18.0	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)	P22	ウ-5	39.0	36.0	23.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P6	イ-2	29.0	26.0	24.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P23	イ-5	63.0	46.0	60.0	楕円形	弥生 甕3片 鉢1片	黒褐色土(10YR3/1)
P7	イ-2	55.0	50.0	19.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P24	イ-5	63.0	61.0	52.0	円形	弥生（後期）甕2片 鉢1片	黒褐色土(10YR3/3)
P8	イ-2	31.0	26.0	20.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)								
P9	イ-2	31.0	46.0	24.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P25	イ-2・3	56.0	45.0	25.0	楕円形		黒褐色土(10YR3/3)
P10	イ-1・2	120.0	93.0	29.0	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)	P26	イ-3	26.0	17.0	14.0	楕円形	弥生 鉢1片	黒褐色土(10YR3/1)
P11	イ・ウ-2	93.0	66.0	23.0	楕円形		黒褐色土(10YR3/1)	P27	ウ-3	45.0	35.0	41.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P12	ウ-2・3	50.0	45.0	25.0	円形	H5より新	黒褐色土(10YR3/1)	P28	イ-5	36.0	28.0	21.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P13	イ-2	25.0	21.0	8.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P29	ウ-2	43.0	35.0	52.0	円形	H5より新	黒褐色土(10YR3/1)
P14	イ-2	25.0	20.0	9.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)	P30	イ-5	36.0	32.0	23.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P15	イ-1	〈20.0〉	28.0	20.0	不明		黒褐色土(10YR3/1)	P31	イ・ウ-3	46.0	43.0	17.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
P16	イ-1	〈20.0〉	28.0	24.0	不明	弥生（中期）鉢6片（同一個体）	黒褐色土(10YR3/1)	P32	ウ-3	31.0	28.0	8.0	円形		黒褐色土(10YR3/1)
								P33	ウ-5・6	32.0	28.0	34.0	円形	弥生 鉢1片	黒褐色土(10YR3/1)
P17	イ-6	43.0	28.0	19.0	円形		褐色土(10YR4/4)	P34	ウ-5	75.0	〈12.0〉	26.0	不明		

報告書抄録

ふりがな	いわむらだいせきぐん にしいっぽんやなぎいせきにじゅうさん
書名	岩村田遺跡群 西一本柳遺跡ＸＸⅢ
副書名	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第268集
編著者名	冨沢 一明
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課
所在地	長野県佐久市中込2913 TEL0267-63-5321 FAX0267-63-5322
発行年月日	令和元年(2019)11月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
いわむらだいせきぐん にしいっぽんやなぎ いせきにじゅうさん 岩村田遺跡群 西一本柳遺跡 ＸＸⅢ	さくしいわむらだ 佐久市岩村田 2324-3 他	20217	52	36°15.57	138°28.05	20190516 ～ 20190527	110	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岩村田遺跡群 西一本柳遺跡 ＸＸⅢ	集落址	古墳～ 平安	住居址 6軒 土 坑 3基 ピット 34個	土師器・須恵器 弥生土器(栗林式)	

要 約	台地上に展開する古代の集落の一部分を調査した。周辺の調査事例と同様に弥生時代中期から平安時代の竪穴住居址が検出された。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第268集
岩村田遺跡群 西一本柳遺跡ＸＸⅢ
令和元年(2019) 11月
編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
文化振興課
〒385-0051 長野県佐久市中込2913
℡0267-63-5321
印刷所 キクハラインク有限会社